

【学校教育目標】「感謝の心をもち、自ら学び、たくましく生きる子供の育成」



学校だより 堂崎つ子

第 9 号

令和 8 年 7 月 9 日

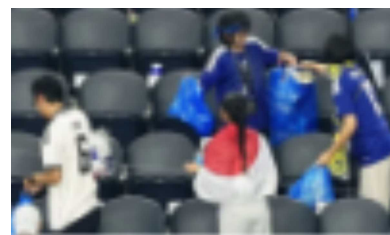
南島原市立堂崎小学校

校 長 末吉 優

世界が賞賛する「日本の当たり前」

自分の家庭、自分の学校、自分の職場……。ふだん過ごしている場所での習慣や雰囲気は、当たり前にも思えてくるものです。しかし、よその家庭・学校・職場など「外」の文化に触れてから自分の日常を振り返ると、「こんなところがすばらしい」という点に気付いたり、「ここは相手のよいところを取り入れてみよう」と思ったりすることがあります。

それは、「日本の国の文化」についても言えることです。現在行われているサッカーワールドカップでは、「試合終了後に会場のゴミ拾いをする日本のサポーター」の姿が報じられていました。自分で出したゴミは自分で片付ける。公共の場では、みんなが気持ちよく利用できるように、来たときよりもきれいに帰ることを心がける。これらのことは、「立つ鳥 跡を濁さず」ということわざがあるように、日本人にとっては当たり前のことかもしれません。しかし、「他人が出したゴミまで片付けるの?」「応援していた日本チームが試合に負けて悔しい気持ちになっているときでも同じことができるの?」海外では、驚きをもって受け止められているようです。



他国のサポーターにも波及し、日本人と同じようにゴミ拾いをする姿が報じられ、注目をされました。また、選手が使用するロッカールームも、日本代表チームが帰った後はいつもきれいに清掃されており、敗戦後に「ありがとう」の言葉をしたためたメモが話題になったこともありました。

他の国に「良い影響」を与えることのできる「日本発の習慣」。それは、ワールドカップという特別な場面以外でもしっかりと発揮できるように、私たち自身、一人一人が心がけたいことでもあります。

我が堂崎小学校では、くつばこの靴、トイレのスリッパ、落ちていたゴミ、使った物のあとしまつ等について、「責任感と思いやり」をセットで「当たり前」の指導を続けています。

たてわり班による折り鶴作り 【7月1日（水）】

高学年が低学年に折り方を教えました。高学年にとっては、1・2年生の頃、教えてもらったことを忘れず、優しい言葉で丁寧に接していました。また、よく折られていない折り鶴を折り直す高学年の姿も多く見られました。



堂崎小学校のよき伝統の一つです。平和集会で「平和の願いを込めた千羽鶴」として紹介されます。



そうめんの日給食 【7月7日（火）】

7月7日は七夕でした。例年、南島原市特産のそうめんが提供されています。

七夕の日にそうめんを食べると病気になるいと言われ、無病息災を願って食べられていたことにちなみ、南島原市では「そうめんの日」とされたそうです。この日のメニューは、米粉パン、冷やしソーメン、チキンナゲット、七夕ゼリー、牛乳でした。梅雨明け(?)を思わせる天気でしたので、冷やしソーメンやゼリーは、子供たちにとってうれしいメニューだったようです。少々雲がありましたので、夜空に天の川を見ることはできませんでしたが、きっと私たちの願いごとは届いたことでしょう。



島原特別支援学校児童と5年生・3年生との交流学习 【6月30日(火)】

半年ぶりに、特別支援学校児童との交流学习を行いました。「特別支援学校の児童が居住する小学校の児童と共に学習・活動することを通して、協力・協同して取り組む意欲と態度を育てる。お互いの理解を深め、居住地区の子ども会活動等(ラジオ体操、廃品回収、地域行事)へ参加の契機にする。」という二つの目的をもって計画されています。



来校したのは、〇〇 〇〇さん、〇〇 〇〇さん(5年生)、〇〇 〇〇さん(3年生)です。毎年、交流学习を行っており、恥ずかしさが全面に現れていた頃と比べると、笑顔で再会する姿があり、成長を感じました。子供たちや先生方と出会った瞬間、なつかしさから満面の笑顔となりました。3年生は、ハイタッチ自己紹介、後出しじゃんけん、3ヒントクイズ等を、5年生は、しりとり、リズム遊び、協力福笑い等を行い、楽しい一時を過ごしました。給食時間になると、はりきって準備をし、おいしそうにいただいていた。昼休みも、運動場に出て、汗をかきながら仲良く遊びました。お母様方も、交流する様子を微笑ましく参観されていました。

うれしいお知らせ



先日、〇〇先生に待望のお子さんが誕生しました。元気な男の子です。おめでとうございます。母子ともに健康だと伺っています。〇〇先生は、お子さんの育児のため、しばらくお休みになられます。



< ↑ 学校支援員：〇〇様からいただいた笹竹に願ひごと >

< たんぽぽ学級・ひまわり学級前の掲示板より ↑ >

5年生 ジオ学習「岩石標本づくり」 【7月3日(金)】

ジオパーク協議会から専門員：〇〇様、〇〇様、認定ジオガイド：〇〇様をお招きして、島原半島を構成する岩石について学習を進めました。子供たちとの対話の中で、岩石には、形・手触り・色・におい等の違いがあるという意見が出され、子供たちは目を輝かせ、岩石の成り立ちや火山の噴火などを確かめながら標本づくりを行いました。島原半島ができた時のこと、阿蘇山の大噴火、雲仙普賢岳の噴火災害等についても学び、長い年月を経てたどり着いた石だったということを考えると、これまた、自分だけの岩石標本となったようでした。子供たちは、作成した岩石標本を自慢げに持ち帰っていました。



夏休みを利用して、家族での「島原半島の成り立ちを自分たちの目で確かめる」島原半島巡りが実現するかもしれません。

